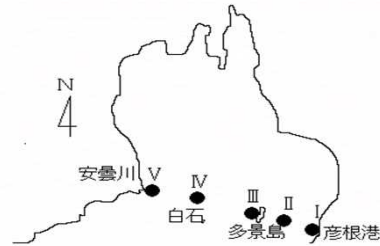


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和3年10月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和3年10月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

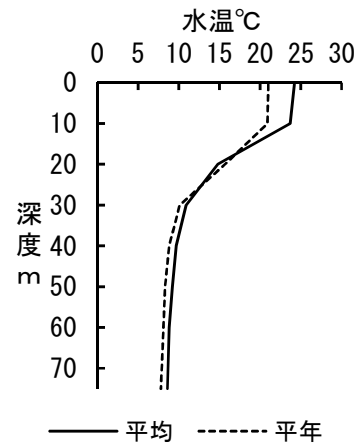
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2011年～2020年(平成23年～令和2年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 10月平均値 6.6m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	24.2	21.0	+3.2
10	23.7	20.9	+2.8
20	14.8	15.7	-0.9
30	10.9	10.1	+0.8
40	9.7	8.8	+0.9
50	9.2	8.3	+0.9
60	8.8	8.1	+0.7
75	8.6	7.8	+0.8



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
9月下旬	24.7	23.5	+1.2
10月上旬	24.0	21.8	+2.2
10月中旬	22.9	20.4	+2.5

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	15.2	15.0	+0.2
10~20	4.3	4.0	+0.3
20~40	0.8	1.0	-0.2
40~75	0.2	0.4	-0.2

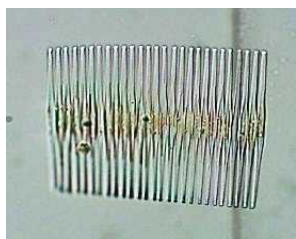
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く確認された。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)およびCYCLOPIDAE(ケンミジンコ科:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が最も多く確認された。



Fragilaria crotonensis



Eodiaptomus japonicus
ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	10月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.7	105.7	8.9	102.9	-0.2	(+2.8)
10	8.5	102.3	8.7	100.7	-0.2	(+1.6)
20	6.2	61.6	7.1	72.8	-0.9	(-11.2)
30	8.0	74.7	7.9	72.6	0.1	(+2.1)
75	3.9	34.1	4.1	35.8	-0.2	(-1.7)